

2025年度 JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座(案)
プログラムNo. 3 : 「アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)」コース プログラム概要票

別紙①-3

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。

1) 研修コース名：	アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)
2) 担当者名：	根本 拓哉 (研修コース委託先業務総括：中田氏)
3) 期間（日数）：	7月22日（火）～25日（金）の4日間。 希望者は8月20日（水）、9月11日（木）または9月22日（月）の各発表会にも参加可能。
4) 定員：	受入人数 3～4人
5) 言語：	英語(実施内容を英語で理解できること) ※目安(TOEIC650点程度)
6) 主な対象学生：	農学系または、開発学関係学部（但し、生物資源生産等に係るフィールドを基礎）在籍で、園芸作物栽培分野に興味・関心のある学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	ボツワナ、エチオピア、ガーナ、レソト、マラウイ、ナミビア、南スーダン、ウガンダ、ジンバブエ

2. コンテンツ

本プログラムの目的	園芸作物栽培技術に係わる実験実習を研修員と共に体験し、研修員との交流を通じて研修員の出身国に対する理解を深める。
-----------	--

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要
1	2025/7/22	火	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	鮮度保持試験（処理区の設置）	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	メロン品種比較試験（収穫調査）/ カボチャの出荷調整	実習	品種比較試験のメロンを収穫する/ 前週に収穫したカボチャ出荷調整をする
2	2025/7/23	水	09:45-12:15	メロン品種比較試験（果実調査）	実習	品種特性を理解するため、果実の形態について測定する
			13:30-16:00	メロン品種比較試験（食味試験）	実習	品種特性を理解するため、消費者の視点で果実食味を評価する
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）
3	2025/7/24	木	09:45-12:15	間引きによる出荷規格調整（収穫）	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
			13:30-16:00	間引きによる出荷規格調整（出荷調整）	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
4	2025/7/25	金	09:45-12:15	カボチャ出荷実習振り返り	実習	カボチャの出荷・競りの結果を踏まえて、栽培における改善点などを検討する
			13:30-16:00	個別課題/プログラム発表資料作成	実習	各研修員が取り組んでいる個別課題学習について研修員から説明を受け、内容について理解する。 プログラム振り返りにおいて発表する資料の準備にあたる
			16:15-17:15	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

3. 留意事項

- ・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。
・園場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴（作業着及び長靴等）を準備してください。
・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

4. 学生さんへ一言

- ・アフリカ・アジアからの研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムにしたいと思います。
・コミュニケーション手段は英語です。臆せず積極的にご参加ください。
・各研修員が取り組んでいる個別実験について、興味ある分野・国があれば、積極的に聞き取りを行うなど交流を図って下さい。

5. その他

上記7月22日（火）から7月25日（金）の4日間をプログラム期間とし、その他に8月20日（水）に開催する「共通実験に係わるポスター発表会」、9月11日（木）の「個別課題レポート発表会」、または9月22日（月）の「インテリムレポート検討会」に参加することも可能。